

坂口寛敏 東京藝術大学退任記念展

パスカルの光

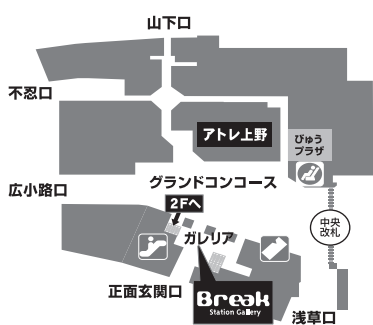
2017年

2月4日〔土〕—3月16日〔木〕

会期中無休—入場無料
7時から23時まで

Break ステーションギャラリー

上野駅正面玄関口「ギャラリー」2階
〒110-0005 東京都台東区上野7丁目



「お問い合わせ」取手アートプロジェクト

info@takasuhouse.com

www.takasuhouse.com

〔主催〕東日本旅客鉄道株式会社



Break
Station Gallery

人は自立して生きるために環境から学び、創造力を得、再びそれを環境へと還元する。

創造の源泉に立ち返り、繰り返し更新される創造の環の中に自己を接続させる。

私は、数量化、物質化できない、真理が発生する世界を表現できないものかと考えている。

海は地上へと押し上げられ山塊は海へと沈下する。

天空の気は飛散し風も層もない宇宙となる。

生に流れる時間は、果たして途切れることなく連続しているのだろうか。

目の前に海が広がる。太陽は私の背後から海を照らし、色彩を刻々と変化させて行く。

日常の時間の流れをどこかで「断ち切る」試みをすることに、芸術は関与しているのだろうか。

坂口寛敏 Hirotoishi Sakaguchi

1945年福岡市生まれ。1969年より東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻（野見山暁治教室）に学び、1975年に同大学大学院を修了。その後、8年間に渡りミュンヘンに滞在し、ミュンヘン美術アカデミー絵画科ライプカ教室にてマイスターシャーラーを取得。

帰国後から現在まで、視覚芸術の源泉となるドロ잉をはじめ、それらを具体化していく絵画制作に取り組んできた。また、空間に飛び出したドロ잉は物質を介してインスタレーションとして展開し、フィールドワークなどのあらゆる手法を用いて、人と場（環境）と関わり、生成と循環のエネルギーに充ちた作品を生み出してきた。

教育と研究においては1991年より東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻の教員として25年間に渡り教鞭を執ってきた。また、学生と共に地域を紡ぐアートプロジェクトなども展開し、新たな芸術の創造と普及にも取り組んできた。

これまでの主な個展として、表参道画廊、Gallery58、村松画廊、ヒルサイドギャラリーなどで多数。また、国際展や企画展として、「帯広防風林アート」（北海道）、「書・非書―中国杭州国際書道芸術展」（中国美术学院美術館）、「異界の風景」（東京藝術大学美術館）、「パスカルの庭」（横浜市美術館）、「プライマリー・ワールド」（神奈川県立近代美術館・葉山館）、「越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟県）、「第18回現代日本彫刻展」（東京国立近代美術館賞受賞・山口県）、「INSIDR Exhibition」（ドイツ）、「移項・ハンブルグ現代日本美術展」（ハンブルグ市立カンプナーゲル・ホールK3）、「渋川現代彫刻トリエンナーレ」（群馬県）、「白州・夏フェスティバル」（山梨県）など。